

哲學研究

第四十七卷 第十二册

第五百五十四號

昭和六十二年九月二十日發行

彙報

『哲学研究』第四十七卷総目録

空と慈悲……………梶山雄一

法律学と哲学……………田中成明

——実践哲学の復権の一側面——

劇としての『精神現象学』……………門脇健

——ヘーゲルの見たハムレット——

スピノザの倫理思想における……………真田郷史

目的因の否定

——人間本性の型 (exemplar humane nature) をめぐって——

〔資料〕西田幾多郎・全集未収載遺稿 (四)

〔回想〕『哲学研究』の思い出……………小田

〔書評〕野本和幸著……………藤本隆志

『フレイゲの言語哲学』

京都大學文學部内
京都哲學會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために左の事業を行う
 - (一) 會誌「哲學研究」を發行する
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 隨時研究會を開く
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく
委員は京都大學文學部哲學科教官及び委員會において推薦したものに委嘱する
- 一、本會は賛助員若干名をおく 賛助員は會員の中から委員會が推薦する
- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けない 學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することができる
- 一、會員は會費として年三、六〇〇圓(會誌代を含む)を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、規約の改正は委員會の決定による

京都哲學會役員

委員

吉岡健二	山本耕平	森哲郎	水垣涉	御牧克己	宝月誠夫	藤澤令夫	平野俊二	濱野研三	服部正三	長谷正三	西谷裕	中谷久	徳永宗	清水御代	清水善三	佐々木丞平	酒井修	木會好能	梶山雄一	芋阪直行	上田閑照	池田秀三
------	------	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	-----	-----	-----	------	------	-------	-----	------	------	------	------	------

會 告

京都哲學會公開講演會豫告

日時 十一月三日(火)午後一時半
會場 京都大學文學部第七講義室

- 一、身體と實存……………京都女子大學教授 田 中 英 三
一、チベット人の傳える經量部の思想 ……京都大學助教授 御 牧 克 己

(順不同)

※ 右終了後樂友會館において懇談晚餐會(パーティー形式)を開きます。(會費約四千圓)
※ 所屬機關長宛出張許可依頼狀御入用の方は京都哲學會までお申出下さい。
※ 當分の間、本學會公開講演會は毎年十一月三日、京都大學文學部で開催いたします。

昭和六十二年九月

京 都 哲 學 會

- (56) E. IV, Prop. 57 S.
 (57) E. III, Prae., Op. p. 138.
 (58) E. IV, Prop. 19.

(59) これについては、既に若干の検討を他所で試みた。
 『中部哲学会会報』昭和60年度、第18号を参照されたい。
 (筆者 さなだ・さとし 名古屋大学文学部「哲学」博士後期課程三回生)

前 号 目 次

曼荼羅の構成(二)……………	清	水	善	三
「真理への意志」……………	圓	増	治	之
——近世哲学に於ける その内的変動——				
デカルトにおける意志の 問題……………	安	藤	正	人
——意志の <i>indifferentia</i> ——				
トマス倫理思想の基礎……………	中	村		治
——至福への本性的欲求に つて——				
〔資料〕西田幾多郎・全集未収載遺稿(三)				
〔討論〕田村均氏の書評に答		神	野	慧一郎
う……………				
〔書評〕藤田正勝著……………	早	瀬		明
『若やクーゲル』				

茶のみぶりを観察されてしまうということであった。先生宅でお茶が出されると、すばやく私がお茶をいただいてしまったので、「君は聞いて来ましたね」とおっしゃって笑顔をなさった。

いただいた原稿には句読点と改行が比較的多かった。校正の時、印刷所での少々の、時には十数字の脱字を、たやすく訂正するための配慮がなされていることやがて気づいたことである。

もうひとりなつかしい思い出のある執筆者は、哲学科で同期の山田晶氏である。当時アウグスチヌスの研究を『哲学研究』に連載させてもらっていたので、京大に近い下宿にたびたび訪ねていった。

昭和十九年の秋に、私は哲学科を卒業した。今年で四十年の春秋を経たことになる。私の研究の出発点がシラーの美的教育論であったことをおもい、シラーの歓喜のうたを歌いつつ、近く七十周年を迎える京都哲学会の今後の発展と『哲学研究』の益々の充実を祈ろう。(昭和五十九年十二月稿)

(筆者おだ・たけし)

香川大学教育学部「教育学」教授)

〔編輯者後記 筆者の小田武教授は『哲学研究』の編輯者第三六五号(昭和二十二年十二月十日発行)から第三九二号(同二十五年四月一日発行)まで担当された。本京都哲学会はさきに第五百五十号の刊行を祝したので、草創七十年のために特別の行事は挙行しなかったが、同教授のこの回想録

を以て、創業以来七十年の歴史の一端を偲ぶことにしたい。

次 号 論 文 予 告	
ヘーゲル『論理学』の理解のために……………	井 修
——— 解釈史からの反省 ———	
マルブランシュの天使論と悪魔論……………	依 田 義 右
歴史と世界……………	早 瀬 明
——— 青年ヘーゲルの経験 ———	
フィヒテ哲学の上り道における自覚……………	阿 部 典 子
〔討議〕	
情報の物理学と哲学……………	品 川 嘉 也
——— 大庭健氏の批評に答える ———	

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けませんが、入會希望の方は京都市左京區吉田京都大學文學部内京都哲學會（振替口座京都二一四〇三九番 京都哲學會）宛に規定の會費（年三、六〇〇圓、但し、會誌數冊分）をお拂込下さい

又會員への會誌送付、バックナンバー購入及び發賣に關する一切は東京都千代田區一番町一七番地創文社（振替口座東京二一九二四七二番）宛に願います
一、會員の轉居・入退會の事務及び編輯事務の一切は京都哲學會宛に御通知下さい

一、本誌の編輯に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和六十二年九月十五日 印刷
昭和六十二年九月二十日 發行

編輯兼 京都市大學文學部内
發行人 京都哲學會
編輯代表 酒井 哲 學
編輯担当 水垣 野 研 三
濱 野 研 三

賣捌所 株式會社 創文社

久保井 理津男
東京千代田區一番町一七番地
振替口座 東京二一九二四七二
電話東京二六三二七二〇（代表）
曙印刷株式會社
印刷所 東京都文京區関口一―二四―八

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告掲載に關する件は「創文社」へ御申込下さい
一、本誌の御註文はすべて代金送料共（一部、送料六〇圓）前金にてお送り下さい

昭和
和六
六十二
年年
九九
月九
月二
十五
日發
行刷

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES
THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XLVII

September

1987

No. 12

Articles

Emptiness and Compassion Yuichi Kajiyama

Philosophy and Law

—*One Aspect of the Rehabilitation of
practical Philosophy*—

.....Shigeaki Tanaka

Phänomenologie des Geistes als das Schauspiel

—*Hamlet, das Hegel betrachtet hat*—

.....Ken Kadowaki

La négation de la cause finale dans

l'éthique de Spinoza

—*sur la notion "exemplar humanae naturae"*—

.....Satoshi Sanada

Recollection

Recollections from the days I was editing

The Tetsugaku Kenkyu

.....Takeshi Oda

Book Review

Kazuyuki Nomoto: Frege's Philosophy of Language

.....Takashi Fujimoto

Notes and Contents of Volume XLVII

Published by

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

I S S N 0 3 8 6 — 9 5 6 3

雑誌コード 06427-9 特別定価 1,600圓